

音声録音再生ソフトウェア

おっかけ君

取り扱い説明書

<b>1. はじめに</b>	<b>3</b>
概要	3
<b>2. ソフトウェア</b>	<b>4</b>
セットアップ	4
動作環境	4
インストール	4
各部名称と機能	5
メニュー	6
録音専用モード	6
設定	7
動作について	8
起動	8
録音	8
プレイリスト	8
キーボードショートカット	8
<b>3. リモートコントローラ</b>	<b>9</b>
RS232C 版リモコン	9
セットアップ	9
仕様	9

# 1. はじめに

---

## 概要

録音中の音声素材の任意の位置にマーク(ID またはインデックス)をつけて、そのポイントから再生するソフトウェアです。  
ラインアウト 1&2 とモニターの 3 ステレオ出力を持ち、それぞれ別々の音声出力に割り当てたり  
モニターだけ別に出力してラインアウト 1&2 はミックス、あるいは全てをミックスなど自由に設定できます。

画面左部分がマーク位置を決めるモニター系で、これには 2 倍 4 倍の早送り/巻き戻し機能があります。  
画面右部分の上下にラインアウト出力のプレイリスト再生があります。この再生とストップはリモートコントローラからの操作に対応しています。

## 2. ソフトウェア

---

### セットアップ

#### 動作環境

Windows7/8.1/10 環境でを使用することをお勧めします。

サウンドカード WindowsWDMドライバ対応のもの

HDD サイズとリニア wav データ量 (1GB=1,000,000,000byte 換算)

	1GB	10GB	40GB	80GB	120GB	250GB	300GB	400GB
48kHz 16bit Stereo	86min	14h	57h	115h	173h	360h	434h	578h
48kHz 16bit Mono	173min	28h	115h	231h	347h	180h	868h	1157h
44.1kHz 16bit Stereo	94min	15h	62h	125h	188h	393h	472h	629h
44.1kHz 16bit Mono	188min	31h	125h	251h	377h	196h	944h	1259h
32kHz 16bit Stereo	130min	21h	86h	173h	260h	542h	651h	868h
32kHz 16bit Mono	260min	43h	173h	347h	520h	1085h	1302h	1736h

#### インストール

1. あらかじめオーディオカードが装着されている必要があります。
2. CD の内容を適当なフォルダにコピーします。  
全てのファイルの属性から読取専用を解除します。
3. (ソフトウェアプロテクト版)  
keyXX.exe を実行して試用制限を解除できます。UAC が有効な場合は右クリックして「管理者として実行」を選択します。  
keyXX.exe はライセンス毎に発行されるものです。第三者に利用されないよう注意してください。  
  
(USB キー版)
  1. USB キードライバをインストールします。詳細は key¥readme.txt を参照してください。
  2. コンピュータを再起動します。
4. sporep.exe が実行ファイル本体です。

## 各部名称と機能



画面上部が録音パネル、画面左がモニター系、画面右の上下にラインアウト系 1、2 が配置されています。

現在時刻表示	録音開始時刻+録音時間の値が表示されます。ほぼ現在時刻の値ですが、なんらかの都合で録音を中断した場合はその停止時間分だけズレが発生します。 また、録音のサンプリングクロックが正確でない場合はその誤差も反映されてしまいます。
録音操作パネル	録音の開始と停止を行います。操作の際には確認のメッセージが表示されます。
入力レベル	表示は db 単位ではなくリニア換算で表示されます。振り切り状態の 75%以上が赤色表示されます。
再生位置表示	モニター系の再生位置表示の上のほうは時刻の表示、下は選択されているマークからの時間です。 ラインアウト系の再生位置表示は選択されているマークからの時間です。
トランスポートボタン	モニター系の再生操作を行います。 一度押した場合は、左から-1 秒、-0.03 秒、+0.03 秒、+1 秒の移動 長く押した場合は、左から-4 倍、-2 倍、+2 倍、+4 倍の早送り巻き戻し再生となります。 ボタンを離したときはその位置から 0.3 秒のループ再生状態となります。再生停止ボタンで解除できます。
再生位置スライダー	モニター系の再生位置を表します。ドラッグして再生位置を変更することもできます。 録音された長さに対しての割合なので、録音時間が短い場合は位置が頻繁に移動します。
再生停止、一時停止、再生ボタン	モニター系、ラインアウト系の再生操作を行います。ラインアウト系は再生停止するとリスト中の次のマークが選択されます。
シャトルスライダー	シャトル再生を行います。
ID ボタン	モニター系のリストに新規マークを追加します。現在録音されている位置がマークされます。
LAP ボタン	モニター系のリストで選択されているマークの LAP (終了位置)を現在録音されている位置に合わせます。
AUD ボタン	選択されているマークをフェードを含めて試聴します。
COPY ボタン	モニター系のリストに新規マークを追加します。モニター系の再生位置がマークされます。
LOCATE ボタン	モニター系のリストで選択されているマークの位置を変更します。モニター系の再生位置が参照されます。
DEL ボタン	各リストで選択されているマークが消去されます。モニター系のリストから削除する場合、 ラインアウト系のプレイリスト中で参照しているマークも同時に消去されます。

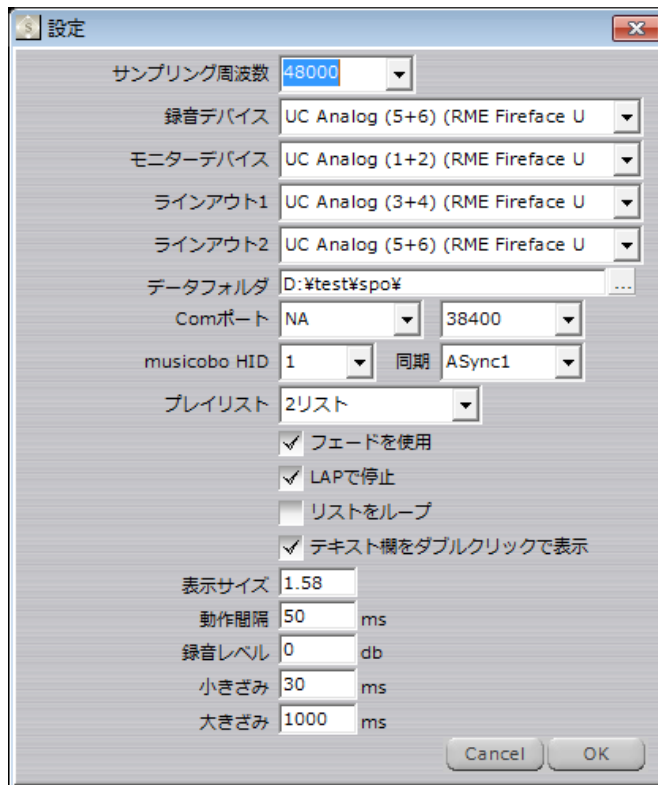
## メニュー

[ファイル]→[開く]	過去に録音したプロジェクトを開きます。 開いたプロジェクトに追加録音は出来ません。
[ファイル]→[名称変更]	録音したものにプロジェクト名をつけて保存します。データフォルダ以下に移動されます。
[ファイル]→[上書き]	マーク情報などを上書き保存します。
[リスト]→[すべてクリア]	モニター系、ラインアウト両方のリストのすべてのマークを消去します。
[リスト]→[プレイリストをクリア]	ラインアウト1と2のプレイリストからすべてのマークを消去します。
[リスト]→[白 ID をクリア]	モニター系のプレイリストの中で操作のされていない白色表示のマークを消去します。 ラインアウト系のプレイリストの中で、このマークを参照しているものも消去されます。
[リスト]→[ファイルに書き出し]	Preview リストで選択されているマークを wav ファイルとして書き出します。
[リスト]→[登録]	ファイルに書き出しをして captor に登録します。
[設定]	設定画面を表示します。
[情報]→[バージョン情報]	バージョン情報とユーザー名を表示します。

## 録音専用モード

録音のみを行います。このモードでは右側の Line Out リストは使用できません。  
録音ファイルの切り替えを手動で行うことが出来ます。

## 設定



サンプリング周波数	録音再生のサンプリング周波数を選択します。
入力デバイス	録音するサウンドカードの入力を選択します。設定はデバイス ID で記録されるので、OS 上でカードが再認識された場合など序列が変わってしまうこともあります。
モニターデバイス	モニター系の出力を選択します。
ラインアウト 1、2	ラインアウトの出力を選択します。 出力同士で同じデバイスを選択する場合はマルチクライアントに対応している必要があります。
データフォルダ	録音データを書き込むフォルダ。 テキスト欄の右のボタンを押すとフォルダ選択画面が表示されます。
com ポート	リモコンを利用する場合の通信ポート
通信速度	リモコンの通信速度。標準仕様では 38400bps です。
musicobo HID	musicobo USB HID リモートを接続する場合その ID を選択します。
同期	通信モードを選択します。通常は AAsync1 にしてください。
プレイリスト	再生用リストの数を選択します。ナシにすると録音専用モードになります。
フェードを使用	マークの再生の際にフェードインアウトを使用します。
リストをループ	右側プレイリストで最下段まで再生したら一番上のアイテムにカーソルが戻ります。
LAP で停止	LineOut リストでの再生の際にマーク終了位置で再生も停止します。
テキスト欄をダブルクリックで表示	これをオフにするとモニター系のリスト上で、ポイントの名称やフェードを変更するテキスト欄が常時表示されます。この状態ではキーボードショートカットは使用できません。
表示サイズ	画面上のボタンなどの表示倍率を設定します。
録音レベル	入力の音声レベルを加減する数値を入力します。ソフトウェア内部でレベルをデジタル操作するのでひずみを回避することは出来ません。
小ささみ/大きさみ	トランスポートボタンの移動量を変更します。初期値は 30ms/1000ms です。

一部設定変更はアプリケーション再起動後に反映されます。

前回の録音データが残っている場合はその wav 形式に合わせて起動します。  
新規に録音を開始したときに変更が反映されます。

初回起動時に作成される sporep.ini の内容を編集することでボタンなどの文字を変更することが出来ます。

# 動作について

## 起動

sporep.exe を実行すると起動します。

起動時に前回のデータが残っている場合はそれを読み込んで表示します。  
これはアプリケーションや PC の障害時にもデータが失われないための機能です。

## 録音

録音ボタンを押すと録音を開始します。録音ボタンがオレンジに変わったら録音が正常に行われています。  
録音の開始と停止の際には確認のメッセージが表示されます。

前回のデータが残っている場合は「続きから録音しますか？」というメッセージが表示されるので、そこで「はい」を選択すると前回の続きとして録音されます。前回録音終了時からの空白の時間は表示上の誤差となりますのでご注意ください。  
「いいえ」を選択した場合は新規の録音となり、マークの情報もすべてクリアされます。

録音データはデータフォルダにある new.dat、new\_00.wav、new\_01.wav という形で作成されます。  
1 ファイルは 2GB 弱で、これは 44100Hz16bitStereo の場合に約 3 時間 20 分となります。

おおよそ必要な HDD 空き容量は確保しておいてください。万一 HDD が一杯になるような場合は OS からの警告が表示されるので不要なファイルを削除して容量を確保してください。そのまま放置すると録音が続行できなくなります。

## プレイリスト

各系統にあるマークのリストをプレイリストと呼びます。このリストの操作は主にマウスから行います。  
リスト中のマークには以下の項目があります。

番号	マークの整理番号。マークを削除しても詰められない一意の番号です。 新規録音を開始する際にリセットされます。
マーク位置	そのマークの再生開始位置。時刻形式で表示されています。
LAP	そのマークの長さ。時間形式で表示されます。
名称	マークの名称。初期値では「マーク 01」のような形式になっています。
FI/FO	フェードインフェードアウトの数値。単位は秒。

各リストの中で再生や操作したいマークをクリックすると、そのマークがハイライト表示されます。  
これがマークが選択された状態です。  
その後で再生ボタンを押すとそのマークの位置から再生され、DEL ボタンを押すとそのマークが削除されます。

マークをクリックするとテキスト欄が表示され、名称の変更ができます。  
フェードを使用する場合はフェードさせたい数値を入力します。小数の入力も可能です。

ラインアウト系のプレイリストにマークを追加する場合は  
モニター系のリストからドラッグ&ドロップを行います。  
ラインアウト系のプレイリスト内ではドラッグ&ドロップによる順番入れ替えが可能です。  
またラインアウト 1 のリストからラインアウト 2 のリストへのドラッグ&ドロップ、またその逆も可能です。

モニター系のリストに含まれるマークに変更や削除などの操作を行うと、ラインアウト系のリスト内の該当するマークも同時に  
変更/削除されます。

モニター系のリストでは  
COPY ボタンによって追加されたマークはオレンジ、LOCATE ボタンによって修正されたマークは緑で表示されます。  
それ以外のマークは白色の表示で、これはメニューの[リスト]→[白 ID をクリア]から一括削除することができます。

## キーボードショートカット

↑、↓	モニター系のリストの選択マークを上下に移動
F9、F12	モニター系のリストの選択マークをラインアウト 1、ラインアウト 2 のリストに追加
スペース	画面上の ID ボタンに相当
Ctrl	画面上の LAP ボタンに相当



### 3. リモートコントローラ

---

#### RS232C 版リモコン

##### セットアップ

接続は付属の専用ケーブルで行ってください。  
ケーブルの Dsub9F 側を PC のシリアルポートに接続します。Dsub9M 側がリモコンに接続されます。  
ケーブルの Dsub9F 側から出ている USB コネクタは PC の USB ポートに接続してください。

通信自体はデバイスの安定しているシリアルポートで行い、電源だけ USB コネクタから供給する仕組みになっています。

リモコンに通電するとすべてのボタンが一瞬点灯するので機器側が正常かどうかを判断できます。  
これはリモコン内蔵マイコンのほうでの動作なので、通信自体の確認はここでは行っておりません。

通信の確認が必要な場合は汎用のターミナルソフトウェアなどで行ってください。

##### 仕様

ラインアウト 1、2 の再生、再生停止ボタンに該当  
動作電圧 5V  
消費電流 60mA  
通信形式 38400bps 8bit non パリティ 1 ストップビット

通信コマンド(データはバイナリ、1 コマンドは 1 バイト)

##### リモコン→PC

データ	動作
1	ラインアウト 1 再生停止
2	ラインアウト 1 再生
3	ラインアウト 2 再生停止
4	ラインアウト 2 再生

##### PC→リモコン

データ	動作
1	ラインアウト 1 再生停止ボタン点灯
2	ラインアウト 1 再生ボタン点灯
3	ラインアウト 2 再生停止ボタン点灯
4	ラインアウト 2 再生ボタン点灯
101	ラインアウト 1 再生停止ボタン消灯
102	ラインアウト 1 再生ボタン消灯
103	ラインアウト 2 再生停止ボタン消灯
104	ラインアウト 2 再生ボタン消灯

